

(13) 鋳業（非鉄金属製錬・精製業）

13 / 12 14 / 13 ◎ 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ ▲ 10%
: 天気図マーク: ○ ● ○ 伸び率 0 ~ 10% ● 伸び率 ▲ 10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要（表－1～3参照）

【銅】13年度の国内需要は、電線、伸銅品の多くの品種において前年度のIT関連の需要増の反動減となり、前年度比20.8%減の1,060.4千トであった。14年度の国内需要は半導体、パソコン用コネクタ、水晶振動子、携帯ケース用薄板向けの伸銅品の需要に若干増が見込まれるものの、電線の全品種（通信、電力、電気機械、自動車、建設・電販等）、特に通信向け電線においては、通信業界の設備投資の更なる減少に伴い、需要も減少すると見込まれ、需要全体として同2.2%減の1,037.0千トの見通しである。

【鉛】13年度は、前年度の蓄電池取替需要増の反動減により前年度比6.7%減の233.7千トであった。14年度においても、自動車メーカーを中心とする蓄電池の需要は回復に至らずに推移すると見込まれ、同0.7%減の232.1千トの見通しである。

【亜鉛】13年度は、東南アジア向け鋼板輸出や国内建材消費の減少による亜鉛めっき鋼板向け需要の減少により、前年度比11.3%減の533.4千トとなった。14年度においても、依然として厳しい状況で推移するものと見込まれることから同0.8%減の529.1千トの見通しである。

(2) 生産・設備稼働（表－1～3参照）

【銅】生産は、13年度は一部製錬所の設備改修工事等により前年度比3.5%減の1,405.0千トとなった。14年度は同2.1%減の1,376.0千トの見通しである。稼働率は14年度の設備能力に変化が無いいため前年度を下回る見込みである。期末在庫は、13年度が前年同期比6.0%増の120.0千トとなり、14年度は同8.3%増の130.0千トの見通しである。

【鉛】生産は、13年度は前年度比1.3%減の236.1千トとなり、14年度は同1.8%減の231.8千トの見通しである。14年度の稼働率は、一部製錬所の設備能力が若干増強されるため前年度を下回る見込みである。期末在庫は、13年度が前年度比86.2%増の41.7千トとなり、14年度は同3.1%減の40.4千トの見通しである。

【亜鉛】生産は、13年度は12年度とほぼ同程度で推移し前年度比0.6%減の648.3千トとなり、14年度は同1.2%増の655.9千トの見通しである。稼働率は、14年度の設備能力に変化が無いため前年度を僅かに上回る見込みである。期末在庫は、13年度が前年同期比3.2%増の115.8千トとなり、14年度は13年度と同量の見通しである。

(3) 企業収益（非鉄大手8社：表－4参照）

平成13年度の非鉄大手8社の売上高は、前年度比9.9%減の16,016億円、経常利益は、同56.8%減の384億円と減収減益となった。

移動携帯電話、パソコン等の電子材料向け部品は、IT不況により需要が激減

し、大幅な減益となった。また、金属製錬部門は、円安だったものの、景気低迷の影響を受けて銅を始めとした非鉄金属価格の下落、需要減により厳しい状況となった。

14年度については、市況に回復に兆しが見えているが、今後も厳しい状況が続くものと予想している。

2. 設備投資動向（グラフ1参照）

12年度設備投資実績額は生産関連設備の維持・補修増強に加え、金属事業や電子材料・部品等成長分野への投資が実施されたことから411億円となった。

13年度設備投資額は12年度実績額とほぼ変わらない422億円の見込みである。投資内容は生産能力の増強や既存設備の維持更新・合理化が中心であるが、IT分野の需要減退等を踏まえ投資時期を見直す傾向にある。

14年度設備投資計画は、更新・維持補修や成長が期待できる事業への投資を行う見込みであるが、厳しい経営環境下、多くの企業では縮小させる傾向にある。

3. 長期資金調達・運用動向

(1) 長期資金運用動向

13年度は、投融資は一部企業の海外投資により若干増加する見込みである。

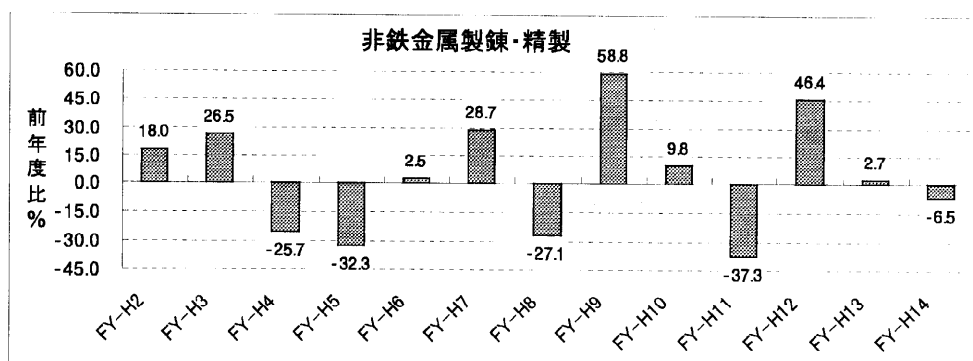
14年度は投資計画の見直しや減価償却費の範囲内での投資計画等により、設備投資等は13年度実績見込みに比べ減少する見込みである。

(2) 長期資金調達動向

13年度は、各企業とも借入金を圧縮させる傾向に変わりがなく、設備資金は主に減価償却費等の内部資金で賄っていく見込みであるが、投融資は一部企業で借入金により調達している。

14年度は一部企業で社債償還の借り換えを銀行借入れに依存するため、流動資産化が進行する見込みである。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）



表－１ 銅地金の需給実績及び見通し

(単位：千トン)

			１１年度	１２年度	１３年度	１４年度（見通し）		
						上期	下期	計
期	初	在 庫	135.2	132.8	113.2	120	125	120
供給	生産	国内 鉱 出	0.9	0.9	0.2	0.1	0.1	0.2
		海外 鉱 出	1,228.7	1,309.3	1,263.1	619.6	616.2	1,235.8
		そ の 他	136.8	146.1	141.7	70.0	70.0	140.0
	小 計		1,366.4	1,456.3	1,405.0	689.7	686.3	1,376.0
	輸 入		226.1	208.8	138.1	55.0	45.0	100.0
	供給 計		1,727.7	1,797.9	1,656.3	864.7	856.3	1,596.0
需要	内 需	電 線	804.3	844.2	686.8	325.0	336.0	661.0
		伸 銅	467.0	464.4	348.6	174.0	17.6	350.0
		そ の 他	21.4	36.0	25.0	13.0	13.0	26.0
	小 計		1,292.7	1,339.2	1,060.4	512.0	525.0	1,037.0
	輸 出		305.8	299.3	453.3	215.0	180.0	395.0
	需要 計		1,598.5	1,638.5	1,513.7	727.7	705.0	1,432.0
期	末	在 庫	132.8	113.2	120.0	125.0	130.0	130.0
過	欠		▲3.6	46.1	22.6	12.7	21.3	34.0
設	備 能 力		1,406.0	1,460.9	1,496.4	748.2	748.2	1,496.4
稼	働 率		97.2%	99.7%	93.9	92.2	92.0	92.0
地 金	再 資 源 化 率		10.0%	10.0%	9.8	10.1	10.2	10.2

表－２ 鉛地金の需給実績及び見通し

(単位：千トン)

			１１年度	１２年度	１３年度	１４年度（見通し）		
						上期	下期	計
期	初	在 庫	32.2	21.0	22.4	41.7	46.2	41.7
供 生	国 内	鉱 出	6.4	8.9	5.2	1.5	1.9	3.4
		海 外	116.1	120.9	121.3	48.9	51.8	100.7
	産	そ の 他	106.8	109.5	109.6	62.5	65.2	127.7
		小 計	229.3	239.3	236.1	112.9	118.9	231.8
	給 輸	入	11.8	31.1	32.1	15.0	5.0	20.0
供 給 計			273.3	291.4	290.6	169.6	170.1	293.5
需 内	蓄 電 池		178.8	184.8	179.6	85.5	92.7	178.2
		無 機 薬 品	32.8	32.2	27.9	13.2	13.3	26.5
	は ん だ	7.1	7.6	6.0	2.7	2.7	5.4	
		そ の 他	22.9	25.9	20.2	11.0	11.0	22.0
	小 計	241.5	250.5	233.7	112.4	119.7	232.1	
	要 輸	出	4.4	1.2	4.0	3.0	3.0	6.0
需 要 計			245.9	251.7	237.7	115.4	122.7	238.1
期	末	在 庫	21.0	22.4	41.7	46.2	40.4	40.4
過 欠			6.4	17.3	11.2	8.0	7.0	15.0
設 備 能 力			274.2	274.2	274.2	137.4	137.4	274.8
稼 働 率			83.8%	87.3%	86.1%	82.2%	86.5%	84.4%
地 金 再 資 源 化 率			46.5%	45.8%	46.4%	55.4%	54.8%	55.1%

注）地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他（くず等）の割合をいう。

表－３ 亜鉛地金の需給実績及び見通し

(単位：千トン)

			１１年度	１２年度	１３年度	１４年度（見通し）		
						上期	下期	計
期 初 在 庫			115.3	108.6	112.2	115.8	125.0	115.8
供 生 産	国 内 鉱 出		63.1	65.8	41.2	20.1	24.2	44.3
		海 外 鉱 出	463.6	476.4	504.8	259.7	260.1	519.8
		そ の 他	109.4	110.0	102.3	45.5	46.3	91.8
		小 計	636.1	652.2	648.3	325.3	330.6	655.9
	給 輸 入	63.8	77.3	54.8	41.0	10.0	51.0	
供 給 計			815.2	838.1	815.3	482.1	465.6	822.7
需 内	亜鉛めっき鋼板		284.8	304.4	281.9	136.8	139.2	276.0
		その他めっき	107.6	102.3	84.0	39.4	44.7	84.1
		伸 銅 品	76.5	72.7	57.8	29.5	29.8	59.3
		ダイカスト	54.7	53.7	53.3	29.0	24.3	53.3
	需 小 計	そ の 他	69.5	68.5	56.4	28.2	28.2	56.4
			592.9	601.6	533.4	262.9	266.2	529.1
		要 輸 出	75.2	44.5	83.3	46.4	50.5	96.9
需 要 計			668.1	646.1	616.7	309.3	316.7	626.0
期 末 在 庫			108.6	112.2	115.8	125.0	115.8	115.8
過 欠			38.5	79.8	82.8	47.8	33.1	80.9
設 備 能 力			701.1	698.4	703.6	351.8	351.8	703.6
稼 働 率			90.7%	93.4%	93.2%	92.5%	94.0%	93.2%
地 金 再 資 源 化 率			17.2%	16.9%	16.8%	14.0%	14.0%	14.0%

注）地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他（くず等）の割合をいう。

表－４ 企業経営動向（非鉄大手８社）

(単位：億円、%)

	11年度実績	12年度実績	13年度実績
売 上 高	17,228	17,785	16,016
売 上 総 利 益	2,241	2,631	2,011
(売上総利益率)	(13.0%)	(14.8%)	(12.6%)
経 常 利 益	559	889	384
(経常利益率)	(3.3 %)	(5.0 %)	(2.4 %)
自 己 資 本 比 率	32.3%	34.3%	32.5%

(注) 非鉄大手８社決算短信より作成